



地域経済の振興とまちづくりに全力 がんばります 原田 完です

日本共産党 京都府委員会 <https://www.jcp-kyoto.jp>

伊根町議選の応援に行ってきました

伊根町の十一月八日告示、十三日投票で行われる町会議員選挙。大谷予定候補と山根予定候補の事務所開きに行ってきました。

伊根町は漁業と農業、観光の町として小さいながらも輝く伊根をと共産党の頑張り町政をけん引する役割を果たしてきました。

小中学生の教材費、給食費、修学旅行費用の無償化、子どもの医療費高校卒業まで無償化、大学の奨学金制度の創設、高齢者など交通弱者対策としての「いねタク」など暮らし第一のまちづくりを進めてきました。

時間の合間を見て、伊根浦定置網の会社社長・京都府の定置網協議会会長との懇談や伊根町の農業委員会会長、町農業再生協議会会長と短時間

11月2日、日本共産党府会議員団は京都府に対し、年末・年度末対策など補正予算も含め、「緊急要望」37項目、「分野別要求」164項目を提案し、予算化・施策化をされるよう申し入れました。



でしたが懇談してきました。

定置網では魚価が上がらず、磯焼けで海草が減少し根魚の減少やアワビやサザエの減少と厳しい実態を話され、定置網へのリースでの支援施策に感謝していると話され、漁業振興に力を尽くしてほしいとの要請もいただきました。

農業では、肥料の高騰、米価下落問題。農業を視野に入れた支援制度の充実等との要望も出され、凶作や米価下落に農業が成り立つ支援を要望も出されました。伊根にお知り合いのいる人はぜひ伊根町へのご支援をお願いします。



暮らし第一の政治に

おすすめ記事
日刊紙（11月2日付）
朝の風
戦争否定の思想こそ
石垣りんの詩「弔詞一職
場新聞に掲載された一〇五
名の戦没者名簿に寄せて」
にこんな一節がある。

後藤田正晴元官房長官は中曽根康弘元首相の自衛隊の海外派遣要請を拒否した。

むろん安倍氏と後藤田氏のちがいは戦争体験の有無だけではないだろう。安倍氏は、東条内閣の閣僚だった祖父・岸信介への尊敬から過去の戦争を否定せず、戦前を「美しい日本」としてたたえていた。

逆に戦争否定の思想に立てば、戦後生まれでも父や祖父母の代の戦争体験をくみあげられる。『詩人会議』11月号の特集「いまこそ、憲法」の詩を読んでそう感じた。戦争否定の憲法は戦争の犠牲の上につくられた。（槐）

〈戦争の記憶が遠ざかるとき、／戦争がまた／私たちに近づく。／そうでなければ良い〉。戦後、戦争の悲惨さを忘れたら、あるいは戦争を知らない世代がふえたら、またぞろ戦争に向かうのではないかという懸念が語られた。

反射的に思い浮かべるのは安倍晋三元首相の「忘却史観」（保阪正康）だ。日中戦争を侵略と認めず、断は歴史家に任せるときは海外の戦争に参加で過去再び戦争を忘れることとは表裏



います。

消費税減税は物価全体を引き下げ、家計を直接支援します。税率を安倍晋三政権による増税前の5%に引き下げることが急務です。

九九の国・地域が消費税、付加価値税を軽減しているというのに、消費税減税に応じようとしない岸田政権は思考停止状態になっています。

物価上昇を上回る賃金引き上げは切実な要求です。総合経済対策は「構造的な賃上げ」と銘打ちましたが、具体策がありません。

総合経済対策には、原発の再稼働・次世代炉の開発、マイナンバーカードと健康保険証の一体化まで入っています。国民の多くが求めている

ことを物価対策に乗じて進めようとしています。「自衛隊の安定的な運用態勢の確保」「米軍再編の着実な実施」を盛り込んで軍事力増強を図ろうとしていることも重大です。

総合経済対策は「円安をいかけた『稼ぐ力』」を掲げています。外国人観光客や輸出を増やすといっても、物価高を抑えなければ中小企業の「稼ぐ力」は衰えるばかりです。輸入物価を急激に押し上げていく、行き過ぎた円安を是正すべきです。

伊根町のように暮らし応援への政治の転換を目指して頑張りましょう。